

「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」の原案について

「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」については、昨年12月の常任委員会において、素案のご報告をしました。その後、市民意見募集等によるご意見をもとに検討を加えるとともに、学識経験者及び各施設種別の代表者等をメンバーとする策定協議会において意見聴取し、原案としてとりまとめましたのでご報告します。

1 市民意見募集の結果について

(1) 意見募集期間

令和元年12月20日（金）から令和2年1月20日（月）

(2) 周知方法

ア 素案及び意見書等の配布

市民情報センター、各区区政推進課広報相談係、各区こども家庭支援課において配布、閲覧に供しました。

イ 市内各施設への郵送による周知

合計1,994か所に素案及び意見書等を郵送しました。

内訳：市内保育・教育施設 1,948施設

（市立保育所、民間認可保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、家庭的保育事業、小規模保育事業所A・B・C型、事業所内保育事業、横浜保育室、幼稚園、認可外保育施設）

子育て支援拠点施設 23施設

一時預かり実施施設 23施設

ウ 関係団体への説明

保育関係団体（横浜市社会福祉協議会保育福祉部会、横浜市私立保育園連盟、日本保育協会横浜市支部、横浜市私立保育園園長会、社会福祉協議会横浜保育室部会）、幼稚園協会、地域子育て支援拠点施設長連絡会へ、素案及び市民意見募集について説明を行いました。

また、横浜市立小学校長会、横浜市立特別支援学校長会へ素案の説明を行いました。

エ 市ホームページへの掲載

(3) 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール

(4) 意見提出状況

98通（意見数：143件）

区分内訳〔保育・教育施設従事者（56通）、保護者（5通）、保育団体（3通）、その他（34通）〕

(5) 意見への対応状況

ご意見を反映し、素案を修正するもの	9件（6.3%）
素案と同趣旨及び賛同いただいたもの ※激励も含む	35件（24.5%）
今後の事業・取組の参考とさせていただくもの ※質問も含む	74件（51.7%）
その他	25件（17.5%）

※小数点第二位で四捨五入しています。端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

2 今後のスケジュール及び周知・活用について

(1) 今後のスケジュール

令和2年2月	策定
3月	公表
3月以降	周知・研修等の実施

(2) 周知方法

ア 事業者説明会での周知

3月に行われる事業者説明会において、内容を説明します。
説明で使用したパワーポイントを各園に資料として活用していただけるようにします。

イ リーフレットの配布

リーフレットを、周知イベントや研修会等で配布するほか、全ての保育者に届けられるよう、市内全保育・教育施設へ郵送します。

ウ 周知イベント・研修会の開催

本宣言を策定する際に開催した「横浜こども指針（仮称）策定協議会」（以下「協議会」という。）に参画いただいた学識経験者に講師を依頼し、講演会や地域別の研修会を開催します。

(3) 事例動画の作成

令和2年度は宣言の各項目について3事例程度作成する予定です。
作成した動画は横浜市公式 Youtube チャンネル等で公開を予定しています。
なお、動画については、今後も更新を続ける予定です。

(4) 保育者向けの解説版及び保護者等に向けた周知の検討

保育者向け解説版の内容や事例の検討、及び保護者等に向けた周知について、協議会においてご意見をいただきます。

ア 保育者向け解説版のイメージ

保育者が宣言の内容の理解を深め、日々の実践に活かすことができるように、項目ごとに、具体例などを示し、園内での研修等で活用ができる内容とする予定です。

イ 保護者等に向けた周知のイメージ

保護者や一般市民には、できるだけ専門用語を使わない方法で、乳幼児期の保育・教育において大切にしたいことなどを伝え、宣言の内容について保育者と保護者等が相互理解をできるような内容とする予定です。

【素案からの主な変更点一覧】

1 タイトルの変更

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
タイトル	よこはま☆ <u>子ども宣言</u> ～乳幼児の <u>保育・教育への心もち</u> ～	よこはま☆ <u>保育・教育宣言</u> ～乳幼児の <u>心もちを大切に</u> ～
リード文	「よこはま☆ <u>子ども宣言</u> ～乳幼児の <u>保育・教育への心もち</u> ～」は、	「よこはま☆ <u>保育・教育宣言</u> ～乳幼児の <u>心もちを大切に</u> ～」は、

2 主語・文言の統一及び明確化

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
《宣言1》 (3)	・お互いに思いを伝え合い、時にはぶつかり、折り合いを付けながら、協力することの楽しさや、他者を信頼する気持ちが <u>育ちます</u> 。	・お互いに思いを伝え合い、時にはぶつかり、折り合いを付けながら、協力することの楽しさや、他者を信頼する気持ちが <u>育つようになります</u> 。
《宣言2》 (1)(2)	(1) 乳幼児期の子どもは、豊かで多様な環境と関わりながら <u>育っています</u> 。 (2) 夢中で遊びこむことで <u>現れる様々な姿は、学びにつながっています</u> 。	(1) 乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と関わりながら <u>育つことを大切にします</u> 。 (2) 夢中になって遊びこむことによる <u>育ちを大切にします</u> 。
《幼保小の連携》 (1)	乳幼児期ならではの「今できること」を大切にすることで、それぞれの子どもに現れてくる資質・能力とその現れとしての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の芽生えを手がかりにして、子どもの成長の様子を園と小学校とで共有したり、必要な支援の引継ぎをしたりします。	<u>保育者は</u> 、乳幼児期ならではの「今できること」を大切にすることで、それぞれの子どもに現れてくる資質・能力とその現れとしての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の芽生えを手がかりにして、子どもの成長の様子を <u>小学校に伝えたり、必要な支援の引継ぎを</u> したりします。
《幼保小の連携》 (2)	小学校で行われる「スタートカリキュラム」では、乳幼児期に培った力が教科等の学習でも存分に発揮できるよう、 <u>安心感と主体性を大切に</u> し、乳幼児期の育ちと <u>学びを</u> 発展させていきます。	小学校では、 <u>乳幼児期の子どもの成長の様子を受け止め、子どもの安心感と主体性を大切に</u> した「スタートカリキュラム」を行い、 <u>乳幼児期に培った力が教科等の学習でも存分に発揮できるように</u> していきます。

3 イメージ図の修正

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
《共有したい子どもの姿》	<p>大切にしたい子どもの育ちと学び</p>	<p>大切にしたい子どもの育ちと学び</p>

4 乳幼児期の育ちと学びと学習についてのつながりに関する修正

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
《宣言2》	このような乳幼児期の育ちと学びは <u>小学校以降の学習</u> につながり、子どもたちの生きる力を育みます。	このような乳幼児期の育ちと学びは（ <u>削除</u> ）、 <u>生涯にわたる</u> 子どもたちの生きる力を育みます。
《幼保小の連携》	乳幼児期の育ちと学びを <u>小学校以降の学習</u> につなげます。	乳幼児期の育ちと学びを <u>受け止め</u> 、 <u>小学校以降の教育</u> につなげます。

5 項目の統合

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
《幼保小の連携》	<p><u>(1) 乳幼児期に培った「学びの芽生え」は、小学校低学年で育つ「自覚的な学び」の基盤になります。</u></p> <p><u>(2) 幼保小連携事業等の機会を活用して、保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な接続につなげます。</u></p>	<p>乳幼児期に培った「学びの芽生え」は、小学校低学年で育つ「自覚的な学び」の基盤になります。</p> <p>幼保小連携事業等の機会を活用して、保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な接続につなげます。</p>

6 表現の削除

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
リード文	<u>保育者の皆さんと共に宣言に基づく保育に取り組むために、保育・教育施設の関係者の皆さんにも御意見をいただき、協力して策定しました。</u>	<u>(削除)</u>

7 表現の追加及びそれに伴う文言等の修正

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
《共有したい子どもの姿》	<p>《共有したい子どもの姿》</p> <p>乳幼児期は、一人ひとりの子どもが、<u>自分自身でやりたいことを見つけ、未来を切り開いていく力をつけていくためにと</u>ても大切な時期です。</p> <p><u>乳幼児は可能性に満ち、主体的に周りの環境に関わっています。</u></p> <p><u>乳幼児期の育ちと学びは、子どもたちの可能性を伸ばし、持続可能な社会の実現に向けて、自らアイデアを生み出したり、問題の解決に向けて他者と協働して解決の方法を考えた</u>りする<u>ような創造的な思考を身につけていく土台</u>になります。</p>	<p>《共有したい子どもの姿・方向性》</p> <p>乳幼児期は、一人ひとりの子どもが（<u>削除</u>）<u>自分自身でやりたいことを見つけ、未来を切り拓いていく力をつけていくためにと</u>ても大切な時期です。</p> <p><u>主体的に周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむ中で、様々な学びの芽生えが見えてきます。</u></p> <p><u>持続可能な社会の実現に向けて、自らアイデアを生み出したり、問題の解決に向けて他者と協働して解決の方法を考えた</u>りする<u>ような創造的な思考を身につけることができ</u>るように、<u>子どもたちの可能性を伸ばしていき</u>ます。</p> <p><u>子どもたちが自分のよさを認識し、可能性を信じていることができるよう、保育者は温かいまなざしを向けます。そして、自分では表現できない思いや考えにも耳を傾け、願いや求めに寄り添って一人ひとりを尊重します。</u></p>

8 表現の修正

変更箇所	変更前（素案）	変更後（原案）
リード文	<p><u>乳幼児の育ちを理解したうえで、この大切な時期に、</u> <u>横浜の保育・教育施設の全ての職員が、</u> <u>どのような考え方で、何を大切に子どもたちと日々関わるかの基本となるものです。</u></p>	<p><u>(削除)</u></p> <p>横浜の保育・教育施設の全ての職員が、 <u>乳幼児期の子どもに対して何を大切に子どもたちと日々関わるかの基本となるものです。</u></p>
《宣言1》	<p>安心できる環境を作り、一人ひとりを大切に保育します <u>子どもたちの命を守り、発達段階に合わせた環境の中で、</u></p>	<p>安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します <u>子どもたちの命を守るとともに、一人ひとりの個性や発達に合わせた環境の中で、</u></p>
《宣言1》 (3)	<p>・自分ではできないようなことに憧れを感じ、様々な体験が広がるように、多様な人と一緒に活動することができる環境を<u>作ります。</u></p>	<p>・自分ではできないようなことに憧れを感じ、様々な体験が広がるように、多様な人と一緒に活動することができる環境を<u>つくり</u>ます。</p>
《宣言2》 (1) (2) (3)	<p>(1) ・乳幼児期の子どもにとって必要な環境とは、一緒に過ごす<u>子ども同士や信頼できる大人</u>といった「人」、園の施設や遊具などの「場やもの」、 (2) ・子どもは物事との出会いや気付きを通して、「なぜ」「どうして」などと<u>考えます。</u> <u>試行錯誤を繰り返し、夢中になって遊びこむことで資質・能力が育ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見えてきます。</u> <u>保育者はその姿をしっかり捉え、子ども理解に努めることで、より良い保育を目指します。</u> (3) 保育者の重要な仕事は子どものよさを発見することです。 <u>・保育者が生き生きと、楽しみながら子どもたちに関わるのが、子どもにとっての良い環境づくりにつながります。</u> <u>・保育者自身が子どもと共に楽しみ、<u>試し考えながら、保育者としての専門性を向上させ、子どもが安心して遊びこめる環境を作ります。</u></u> <u>・園内で、保育者同士が保育について語り合う場を作り、それぞれの保育者が捉えた子どもの育ちや学びを共有することが大切です。</u> そして、<u>そのことを家庭や地域に伝えていくことも保育者としての重要な役割です。</u></p>	<p>(1) ・乳幼児期の子どもにとって必要な環境とは、一緒に過ごす<u>保育者などの大人や子ども同士などの「人」、園の施設や遊具・素材・道具</u>などの「場やもの」、 (2) ・子どもは<u>遊びの中で多様な物事との出会いや気付きを通して、「なぜ」「どうして」などと試行錯誤や探求を繰り返します。</u> <u>試行錯誤を繰り返し、夢中になって遊びこむことで育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が総合的に育ちます。</u> <u>保育者はその姿や学びの姿を日々の振り返りを通して捉えながら、より良い保育を目指します。</u> (3) 保育者の重要な仕事は<u>一人ひとりの子どものよさを発見し、育てること</u>です。 <u>・保育者は一人ひとりの子どもの姿に驚き、それぞれのよさを発見することに努めることで、受容的・応答的に関わることができ、信頼関係の形成につながります。</u> <u>・保育者自身が子どもと共に楽しみ、<u>対話し、振り返り、考えながら関わる中で専門性を向上させ、子どもが安心して遊びこめる環境をつくり</u>ます。</u> <u>・園内で、保育者同士が保育について語り合う場を作り、それぞれの保育者が捉えた子どもの育ちや学びを共有しながら、<u>同僚性を高める</u>ことが大切です。</u> そして、<u>子どもの育ちを家庭や地域に伝えていくことも保育者としての重要な役割です。</u></p>

「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」は、横浜の保育・教育施設の全ての職員が、乳幼児期の子どもに対して何を大切に子どもたちと日々関わるかの基本となるものです。全ての保育者がこの宣言を理解し、日々の実践の中でそれぞれの子どもによさや可能性に気づき、家庭や地域の方と子どもの姿を共有できるような保育に取り組むとともに、保育の振り返りに活用していきます。

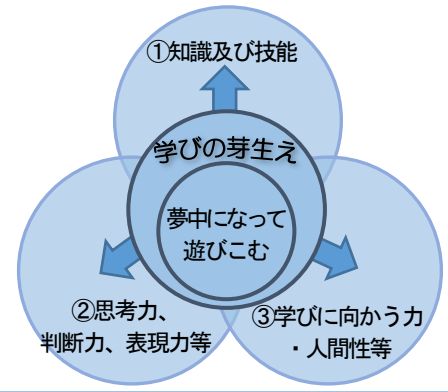
《共有したい子どもの姿・方向性》 今と未来を生きる子どもを育みます

乳幼児期は、一人ひとりの子どもが自分自身でやりたいことを見つけ、未来を切り拓いていく力をつけていくためにとても大切な時期です。主体的に周りの環境に関わり、夢中になって遊びこむ中で、様々な学びの芽生えが見えてきます。

持続可能な社会の実現に向けて、自らアイデアを生み出したり、問題の解決に向けて他者と協働して解決の方法を考えたりするような創造的な思考を身につけることができるように、子どもたちの可能性を伸ばしていきます。

子どもたちが自分のよさを認識し、可能性を信じていることができるよう、保育者は温かいまなざしを向けます。そして、子どもたちが自分では表現できない思いや考えにも耳を傾け、願いや求めに寄り添って一人ひとりを尊重します。

大切にしたい子どもの育ちと学び



【非認知能力】

- やりたいことを見つけ、自分なりの方法で取り組むこと。
- やりたいことに向かって粘り強く取り組むこと。
- 喜びや悲しみを仲間と共感したり、多様さを受け入れたりすること。
- 思い通りに行かなくても気持ちを切り替えて新しい工夫をしようとする。
- 経験を通して自分に自信をもつこと。 など

【認知能力】

- 知識、思考、経験を獲得する精神的な能力。
- 獲得した知識を基に解釈し、考え、未知のことを推測・予測すること。
- 記憶力。 ○考える力。
- 概念化すること。
- 身近なものの特徴に気付く。 など

【育みたい資質・能力】(学びの芽生え)

- ①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力等の基礎 ③学びに向かう力・人間性等

《宣言1》 安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します

子どもたちの命を守るとともに、一人ひとりの個性や発達に合わせた環境の中で、自分を「かけがえのない存在」だと感じて日々を過ごすことができるように関わります。

- (1) 安心感・信頼感を大切に、子どもを守ります。
 - ・乳幼児期に温かく受容的・応答的に関わることで、子どもが安心できる場や信頼できる関係を作ります。
 - ・うまくいかなかったり、不安になったりした時に、気持ちを受け止め、安心して戻れる場や関係を作ります。
- (2) 子ども一人ひとりを受け止めます。(子どもたちが自己肯定感をもって、様々なことに挑戦できるようにします。)
 - ・子どもは一人ひとり違います。子どもが安心して自分らしさを出せるように、目の前の子どもを理解し、それぞれの子どものありのままの姿を大切に、受け止めます。
 - ・それぞれの子どもがやりたいことを見つけたり、じっくり取り組んだりできる環境をつくりまします。
- (3) 子どもが様々な人と関わることを大切にします。(色々な人と関わり、多様性に気付けるようにします。)
 - ・お互いに思いを伝え合い、時にはぶつかり、折り合いを付けながら、協力することの楽しさや、他者を信頼する気持ちが育つようにします。
 - ・自分ではできないようなことに憧れを感じ、様々な体験が広がるように、多様な人と一緒に活動することができる環境をつくりまします。

《宣言2》 子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします

乳幼児期の育ちと学びは、自分の遊び(体験)を通して「未知なことや分からないことを自分なりに考え、自分自身が納得するまで探究し続けること」です。

このような乳幼児期の育ちと学びは、生涯にわたる子どもたちの生きる力を育みます。

- (1) 乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。
 - ・乳幼児期の子どもにとって必要な環境とは、一緒に過ごす保育者などの大人や子ども同士などの「人」、園の施設や遊具・素材・道具などの「場やもの」、自然や社会などの「事象」、試行錯誤やじっくり取り組むための「時間」などがあります。
 - ・園の実情や地域性を考慮し、それぞれの園における子どもにとってのより良い環境づくりに子どもと共に取り組みまします。
- (2) 夢中になって遊びこむことによる育ちを大切にします。
 - ・子どもは遊びの中で多様な物事との出会いや気づきを通して、「なぜ」「どうして」などと試行錯誤や探求を繰り返します。夢中になって遊びこむことで、育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が総合的に育ちまします。保育者はその姿や学びの姿を日々の振り返りを通して捉えながら、より良い保育を目指します。
- (3) 保育者の重要な仕事は一人ひとりの子どものよさを発見し、育てることです。
 - ・保育者は一人ひとりの子どもの姿に驚き、それぞれのよさを発見することに努めることで、受容的・応答的に関わることで、信頼関係の形成につながります。
 - ・保育者自身が子どもと共に楽しみ、対話し、振り返り、考えながら関わる中で専門性を向上させ、子どもが安心して遊びこめる環境をつくりまします。
 - ・園内で、保育者同士が保育について語り合う場を作り、それぞれの保育者が捉えた子どもの育ちや学びを共有しながら、同僚性を高めることが大切です。そして、子どもの育ちを家庭や地域に伝えていくことも保育者としての重要な役割です。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体 ○自立心 ○協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり ○思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

《幼保小の連携》 乳幼児期の育ちと学びを受け止め、小学校以降の教育につなげます

乳幼児期に培った「学びの芽生え」は、小学校低学年で育つ「自覚的な学び」の基盤になります。幼保小連携事業等の機会を活用して、保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な接続につなげます。

- (1) 保育者は、乳幼児期ならではの「今できること」を大切にしながら、それぞれの子どもに現れてくる資質・能力とその現れとしての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の芽生えを手がかりにして、子どもの成長の様子を小学校に伝えたり、必要な支援の引継ぎをしたりします。
- (2) 小学校では、乳幼児期の子どもたちの成長の様子を受け止め、子どもの安心感と主体性を大切に「スタートカリキュラム」を行い、乳幼児期に培った力が教科等の学習でも存分に発揮できるようにしていきます。